



親子関係を多少とも構造的に分析するためには、いくつかの角度を設ける必要がある。

ここで用意した設問は、親と子の①権威関係、②庇護関係、③親と子の心理的距離の3つである。

●親子関係の姿)))

1) タテかヨコか

最近の日本の親子関係、とくに父子関係を表現するキーワードとして「友だちのような」が使われる。これは親子の間にタテの権威関係がなくなって、親子が対等なヨコ並び関係になってきていることを示している。親子関係が、それぞれの都市でタテ関係かヨコ関係かを、まずみていくことにしよう。表25(図10)は、「休みの日の過ごし方を決めるとき」「テレビを買うとき」「スニーカーを買うとき」「学校へ着ていく服を決めるとき」の

ように、それぞれ決定のレベルが違う場面を用意して、おもに親の意見と子どもの意見のどちらが尊重されるかをみている。

まず全体に、「テレビを買う」「休みの日の過ごし方を決める」など家族全体にかかわる決定は、どの都市でも親の方が決定権を持っており、とくにテレビのような高額な買い物の際に子どもの意見が尊重される割合は低く、どの都市でも大差はなく、親が決めている。

休みの日の過ごし方になると、全体に親が決める割合は減っており、また都市間で多少差も出てくる。子どもの決める割合をみると東京、上海では44%、35%と多少子どもの発

言が大事にされるが、ロンドンとニューヨークではそれが25%、22%と低めである。ちなみに、休みの日の過ごし方を「いつも親の意見で決める」は、ロンドンとニューヨークでは3割を超えており、アジア圏よりも親の決定権が保存されている。

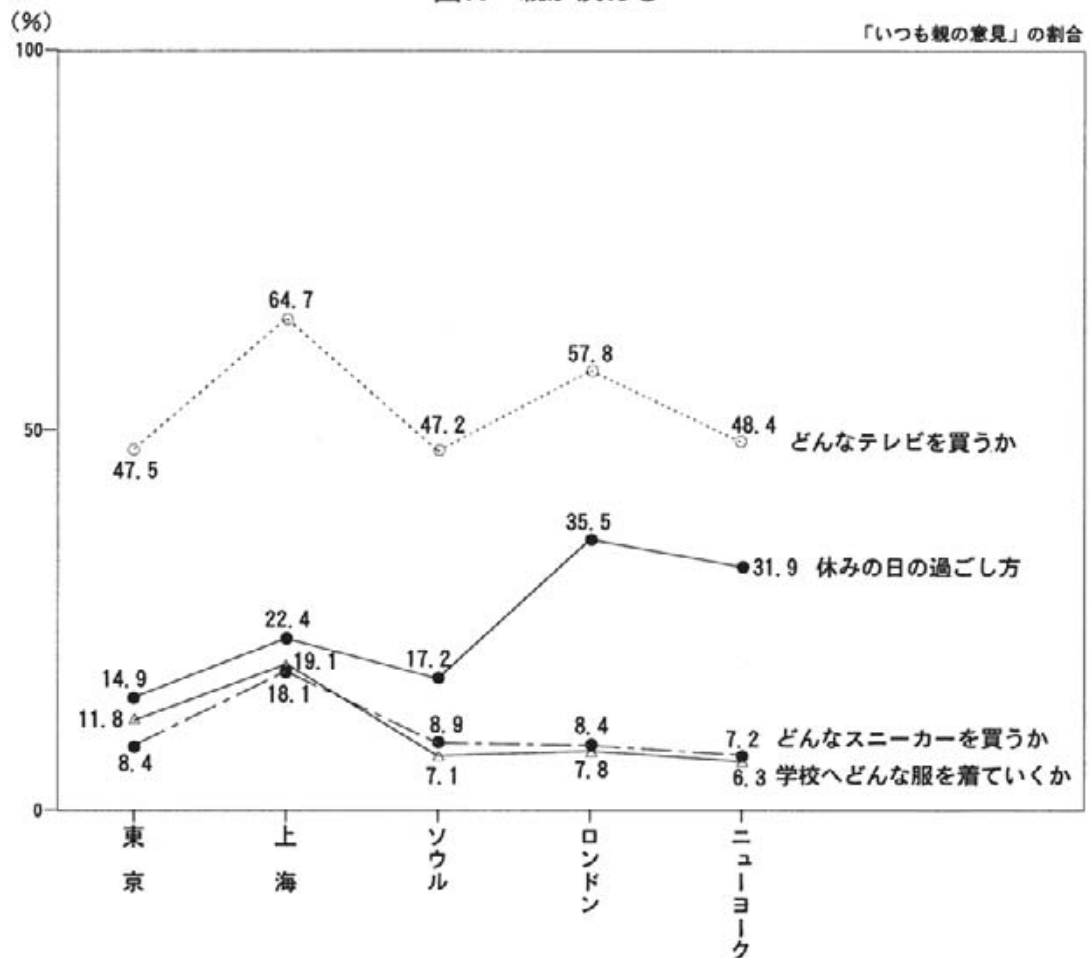
これら家族にかかわる決定場面と違うのは子ども個人にかかわる場面で、「スニーカーを買う」「学校へ行くときの服を決める」で

は、むしろロンドンとニューヨークの方が、多少とも子どもの決定権が大きい。そうした意味では、西洋の家族運営には子どもの意思は尊重されないが、個としての子どもは尊重されている。しかしアジアでは、子ども中心主義が家族全体の運営に発揮されるが、個としての子どもの権利は認められていないかのようである。

表25 親が決めるか、子が決めるか
— 親子の意見が合わないとき、どうするか —

		(%)				
		東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
休みの日の過ごし方	いつも親の意見	14.9	22.4	17.2	35.5	31.9
	わりと親の意見	41.4	42.9	54.3	39.5	46.3
	わりと子どもの意見	37.0	29.0	25.0	20.5	19.0
	いつも子どもの意見	6.7	5.7	3.5	4.5	2.8
どんなテレビを買うか	いつも親の意見	47.5	64.7	47.2	57.8	48.4
	わりと親の意見	40.9	29.2	42.1	28.3	33.2
	わりと子どもの意見	9.4	4.4	8.8	9.9	12.1
	いつも子どもの意見	2.2	1.7	1.9	4.0	6.3
どんなスニーカーを買うか	いつも親の意見	8.4	18.1	8.9	8.4	7.2
	わりと親の意見	13.9	19.3	17.9	12.6	11.4
	わりと子どもの意見	40.9	36.0	49.9	38.1	39.3
	いつも子どもの意見	36.8	26.6	23.3	40.9	42.1
学校へどんな服を着ていくか	いつも親の意見	11.8	19.1	7.1	7.8	6.3
	わりと親の意見	14.6	34.7	18.4	10.8	8.7
	わりと子どもの意見	23.3	31.9	43.0	22.4	29.8
	いつも子どもの意見	50.3	14.3	31.5	59.0	55.2

図10 親が決める



2) 親のしつけとコントロール

では親は、それぞれの都市で子どもに何を期待し、どうしつけているか。まず勉強か、それとも他のしつけかをみてみよう。表26によれば、親から何を言われるかみてみると、「きれいに歯をみがきなさい」「家の手伝いをしなさい」「もう寝なさい」などについては、ロンドンとニューヨークがよく言われており、しつけの厳しさが見える。では勉強に関して

の期待をみてみよう。「もっと勉強しなさい」「テレビばかり見てはいけません」をみると、いずれの項目も上海が群を抜いてよく言われている。「いつも・かなり言われる」の数字をみていくと、「もっと勉強しなさい」では上海が88%、次いでソウルの56%、ニューヨークの53%、ロンドンの37%で、東京は意外にも35%と最小である。ただし東京には学習塾があり、宿題も多い事情をこの数字に加味して考える必要があるようだ。

表26 親から言われること

(%)

		東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
きれいに歯をみがきなさい	いつも言われる	17.5	38.8	23.2	42.2	57.1
	かなり言われる	15.9	19.9	19.2	16.5	17.3
	少し言われる	30.3	13.7	24.7	15.7	11.3
	あまり言われない	25.1	10.3	22.8	11.8	7.1
	まったく言われない	11.2	17.3	10.1	13.8	7.2
家の手伝いをしなさい	いつも言われる	7.1	5.0	6.7	20.5	23.8
	かなり言われる	8.8	22.1	11.0	19.1	24.2
	少し言われる	23.0	34.7	25.1	25.6	21.6
	あまり言われない	30.5	22.2	33.1	16.7	15.3
	まったく言われない	30.6	16.0	24.1	18.1	15.1
もう寝なさい	いつも言われる	21.0	29.2	18.8	32.5	53.1
	かなり言われる	21.6	27.5	24.3	17.6	19.1
	少し言われる	25.5	17.6	22.3	19.7	12.8
	あまり言われない	18.6	13.7	16.5	15.6	8.7
	まったく言われない	13.3	12.0	18.1	14.6	6.3
もっと勉強しなさい	いつも言われる	17.7	70.1	26.9	23.2	29.6
	かなり言われる	17.1	17.9	29.4	13.8	22.9
	少し言われる	25.5	4.8	27.7	18.4	19.4
	あまり言われない	20.5	4.2	12.1	16.4	13.6
	まったく言われない	19.2	3.0	3.9	28.2	14.5
テレビばかり見てはいけません	いつも言われる	8.0	33.2	14.1	13.7	17.0
	かなり言われる	12.8	27.8	22.5	13.3	14.3
	少し言われる	26.2	17.5	27.0	20.5	25.7
	あまり言われない	27.8	11.7	24.1	19.9	19.4
	まったく言われない	25.2	9.8	12.3	32.6	23.6

●親との距離)))

1) 親からの心理的圧力

次に親から受ける心理的圧力(心配の度合い)をみてみよう。表27(図11)では、「風邪で高熱が出た」「学校からの帰宅時間が30分遅れた」「友だちからいじめられた」「勉強の成績がぐんと下がった」の4場面で親が子どもをどのくらい心配するか、尋ねている。

まず、健康上のトラブルではどうか。上海では75%、ソウルでは68%の子どもが「親はとて心配するだろう」と答えており、親の子に対する関心が強い。子どもの安全に関するトラブル「30分の帰宅の遅れ」でも、38%とやはり上海が最も心配されている。この項目に関しては、次いでロンドン、ニューヨークとなっており、東京は安心度が高い。治安のよさを反映する数字でもあろう。またいじめられたときに関しては、ロンドンが41%と心配され、東京は15%と最も数値が低い。

最後に「成績の低下」については、上海が

92%と異常な心配のされ方で、一人っ子社会での勉強に対する過期待は顕著である。次いでソウルの61%で、これも納得できる数字だろう。ここでも、東京が最も心配されていない。この4つの項目に見いだされるのは、上海の親の持つ子どもへの強い期待と不安、東京の親が子どもに持つ安心感であろう。

またこれと関連して表28(図12)は、「風邪で少しせきが出て、頭が痛い」とき、子どもに登校を強制するか、休ませるか、勉強に対する親の期待と圧力をみている。具合が悪くとも「がんばって、学校に行くように」と強圧的な親は、上海が43%、ソウル34%と際だって多く、次いで東京の23%である。子どもの具合が悪ければ学校を休ませるのは当然ではないかと思う。しかし、そう言われる子は、ニューヨークで74%、ロンドンで64%、東京では42%だが、ソウルではぐんと下がって19%、上海ではわずか4%と、上海、ソウルの親の子どもにかかる期待の猛烈さが伝わってくる。

表27 親からの心配

(%)

		東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
風邪で高熱が出た	とても心配する	39.3	74.8	67.9	29.9	41.3
	かなり心配する	32.2	18.0	23.8	27.9	32.8
	やや心配する	17.9	4.4	4.7	28.3	14.6
	あまり心配しない	6.9	1.7	2.6	10.7	8.6
	ぜんぜん心配しない	3.7	1.1	1.0	3.2	2.7
学校からの帰宅時間が30分遅れた	とても心配する	6.8	38.2	16.0	25.9	25.2
	かなり心配する	11.7	28.4	32.3	21.1	24.9
	やや心配する	29.4	17.5	26.1	24.7	24.7
	あまり心配しない	27.0	8.9	16.4	17.6	17.3
	ぜんぜん心配しない	25.1	7.0	9.2	10.7	7.9
友だちからいじめられた	とても心配する	14.9	35.1	34.5	40.9	31.5
	かなり心配する	19.1	28.3	33.3	26.8	28.9
	やや心配する	25.5	17.7	15.2	16.5	20.6
	あまり心配しない	22.1	11.0	10.8	9.3	9.2
	ぜんぜん心配しない	18.4	7.9	6.2	6.5	9.8
勉強の成績がぐんと下がった	とても心配する	23.1	92.3	60.9	47.0	45.2
	かなり心配する	24.7	5.6	28.9	30.0	28.3
	やや心配する	26.0	1.5	6.7	14.1	15.0
	あまり心配しない	15.7	0.5	2.6	6.9	8.0
	ぜんぜん心配しない	10.5	0.1	0.9	2.0	3.5

図11 親からの心配

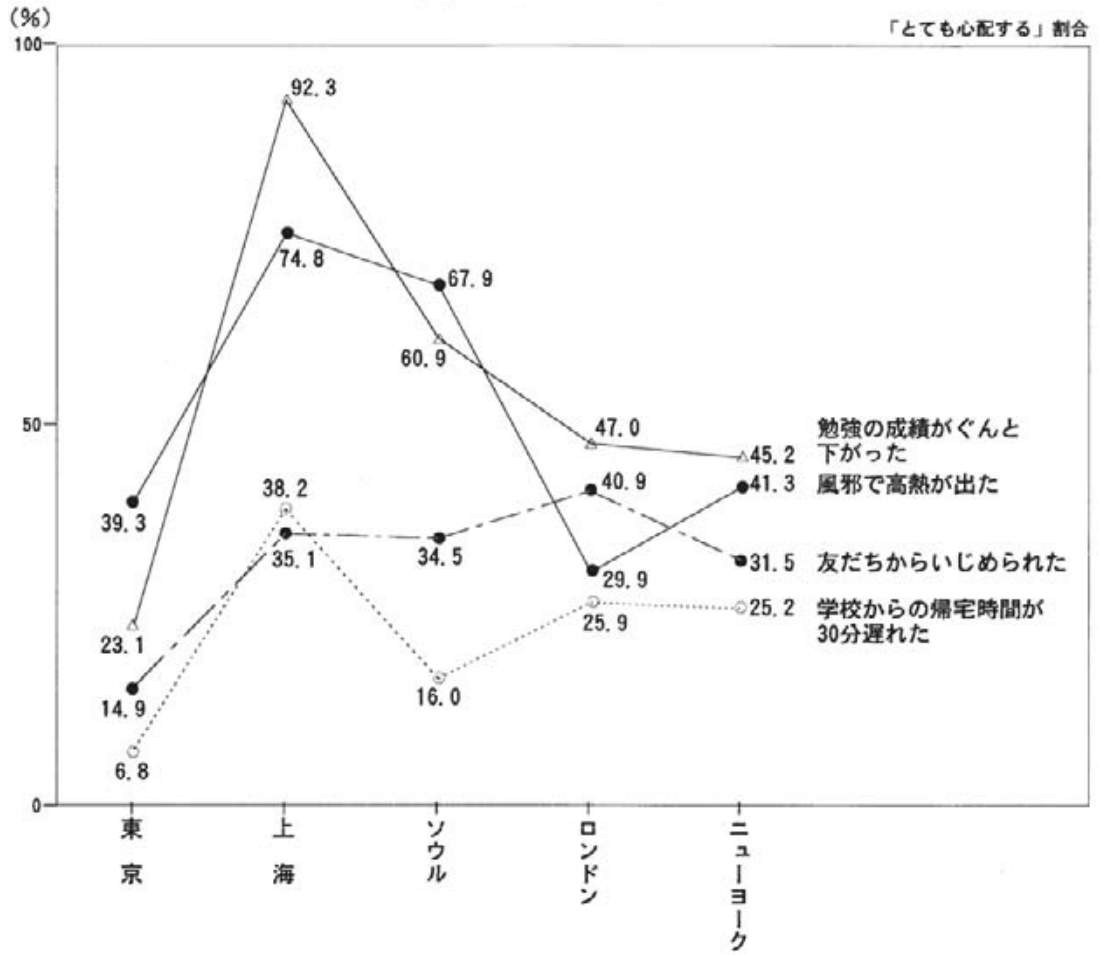


表28 登校の強制

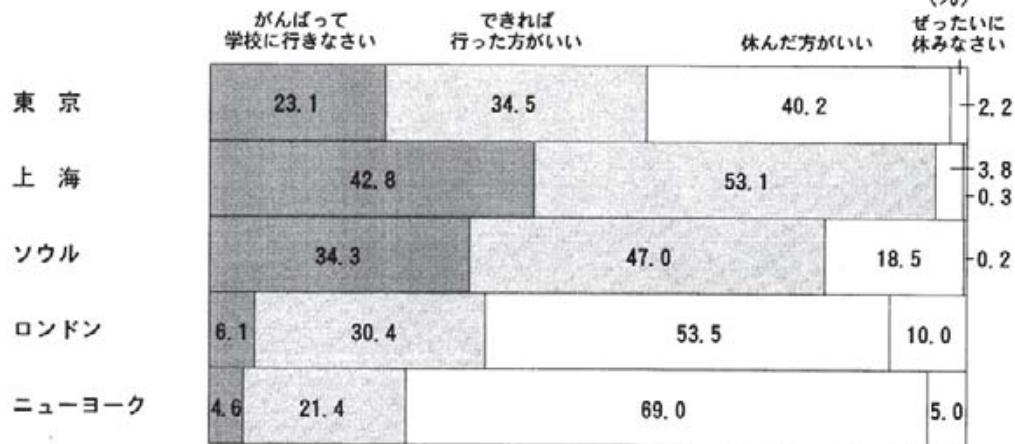
— 体調が悪いとき、登校について親は何と言うか —

(%)

	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
がんばって学校に行きなさい	23.1	42.8	34.3	6.1	4.6
できれば行った方がいい	34.5	53.1	47.0	30.4	21.4
休んだ方がいい	40.2	3.8	18.5	53.5	69.0
ぜったいに休みなさい	2.2	0.3	0.2	10.0	5.0

図12 登校の強制

(%)



2) 親子間の疎通性

次に、親子の間でどのくらい、気持ちが通じ合っている（と子どもが感じている）かをみていく。表29で、自分の気持ちを「とてもよくわかってくれる」の数字をみていこう。（1）「学校でつらいことがあったとき」親が自分の気持ちを「とてもよくわかってくれる」とする子（図13）は、上海が断然多くて68%、次いでロンドン、ニューヨークの約45%となり、東京は31%と低い。

同様な質問で、（2）「自分がいつも何を考えているか、親はわかっているか」については、（1）「学校でつらいことがあったとき」よりは、全体に数字が低くなる。しかし「少しわかっている」を合わせてみると、わかっていると答えた子は、東京が64%、上海73%、ソウル72%、ロンドン45%、ニューヨーク61%と、ロンドンを除いて、親子の疎通はどの都市でもほどよくできているといえそうだ。また「とてもわかっている」に限定してみると、やはり上海が25%と高く、ロンドンだけが10%と低くなっている。逆に「ぜんぜんわかっていない」はロンドンが25%と突出していて、ロンドンの親子関係には、何か問題が

あるのかもしれない。

では逆に、親の気持ちに対する理解はどうか。（3）「親がどんな気持ちでいるかわかるか」をみよう。「いつもわかる」は、ここでも上海が37%で、断然高く、上海の親子の関係の疎通性のよさは際だっているが、この年齢での親子間の疎通性が健康なのか未熟なのかは、意見の分かれるところかもしれない。また「いつも・わりとわかる」を合わせてみると、高い順に上海86%、ソウル85%がダントツで、東京59%、ニューヨーク53%、ロンドン52%と続く。また親が何を考えているか「ぜんぜんわからない」子は、ここでもロンドンが18%と多い。

次に、（4）「親はあなたの考えに賛成してくれるか」、すなわち親子の一体性をみてみよう。「いつも反対」「いつも賛成」は、さすがに少数だが、「いつも・わりと反対する」と答えている子は、なぜか東京が36%で多く、次いでロンドンの33%、さらにニューヨーク26%、ソウル14%、上海が14%の順である。

これらをまとめると、やはり上海の親子関係の近さには大きな特徴があり、ソウルも多少それに近い。それに比べて、ロンドンには何かその点で、違う部分がありそうだ。

表29 親子の意志の疎通性

(1) 学校でつらいことがあったとき、親は気持ちをわかってくれるか (％)

	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
ぜんぜんわかってこない	8.1	3.2	3.2	3.9	4.3
あまりわかってこない	14.3	7.5	9.6	14.0	13.8
少しわかってくれる	46.3	21.7	50.6	34.7	36.5
とてもよくわかってくれる	31.3	67.6	36.6	47.4	45.4

(2) 自分がいつも何を考えているか、親はわかっているか

ぜんぜんわかっていない	14.4	9.0	8.2	24.9	11.9
あまりわかっていない	21.4	17.8	20.3	30.2	27.5
少しわかっている	44.3	48.0	48.5	34.5	39.2
とてもわかっている	19.9	25.2	23.0	10.4	21.4

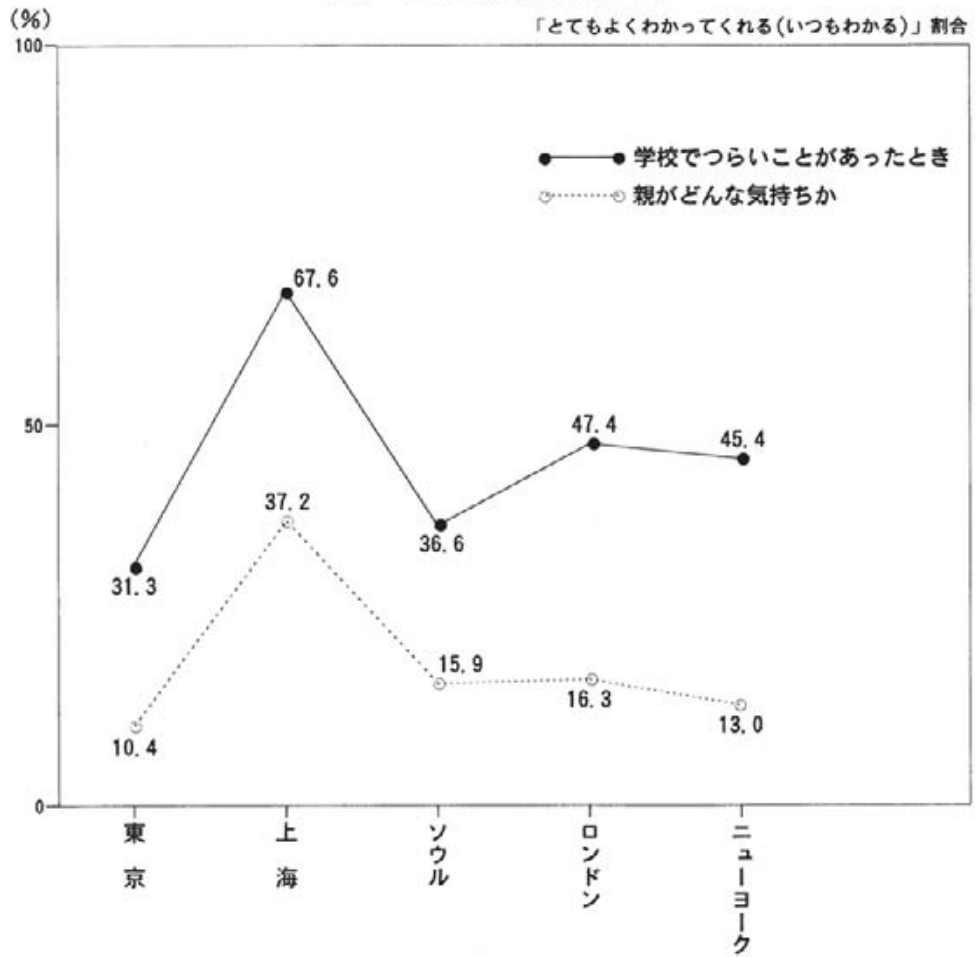
(3) 親がどんな気持ちでいるかわかるか

ぜんぜんわからない	10.7	2.7	2.9	18.3	13.6
あまりわからない	30.1	11.6	12.4	30.2	33.9
わりとわかる	48.8	48.5	68.8	35.2	39.5
いつもわかる	10.4	37.2	15.9	16.3	13.0

(4) 親はあなたの考えに賛成してくれるか

いつも反対する	4.4	2.3	1.2	6.9	3.6
わりと反対する	31.4	11.3	13.0	25.7	22.6
わりと賛成してくれる	60.5	80.3	83.5	61.7	70.0
いつも賛成してくれる	3.7	6.1	2.3	5.7	3.8

図13 親子の意志の疎通性



●親としての許容度)))

1)子どものわがママをどのくらい許すか

表30は、子どものわがママを(1)「食べ物の好き嫌い」、(2)「おもちゃをねだる」に代表させて、それをどのくらい許すかみたものである。

(1)子どもが、「このおかずは嫌いだ、たまご焼きが食べたい」と言ったら親はどうするか。「きっと作ってくれる」という甘い親

は、上海17%、ソウル17%で、次いでニューヨーク>東京>ロンドンの順になっている。(2)「友人の持っているゲームをほしがったとき」は、「きっと買ってくれる」が、上海が11%で多く、「たぶん買ってくれる」を合わせると、ニューヨーク>上海>ロンドン>東京>ソウルの順になる。経済的条件が違うので、一律に比較はできないものの、上海の親はここでも甘いようである。

表30 子どものわがママの許容性

(1) 「このおかずは嫌いだ、たまご焼きが食べたい」と言ったら? (%)

	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
きっと作ってくれる	9.1	17.1	17.0	7.0	12.5
たぶん作ってくれる	24.2	31.3	42.4	26.6	42.6
たぶん作ってくれない	36.7	21.2	30.5	27.6	28.5
ぜったい作ってくれない	30.0	30.4	10.1	38.8	16.4

(2) 友人の持っている3,000円のゲームを買ってほしいと何度も言ったら?

きっと買ってくれる	5.1	10.5	2.5	5.3	7.6
たぶん買ってくれる	19.6	34.2	17.1	37.7	45.0
たぶん買ってくれない	41.7	23.2	47.2	40.0	37.3
ぜったい買ってくれない	33.6	32.1	33.2	17.0	10.1

2) 親子関係への期待

この年齢の子どもたちは、親ともっと接触し、保護を受けたいと思っているのだろうか、それとも親からの干渉を嫌がり、自立したがつているのだろうか。

表31によれば、親との密接な関係を望んでいるのは、上海が抜きんでており、次いでソウルとなっている。「もっと話す時間がほしい」と「とてもそう思う」子は、上海が57%、ソウルが38%、「もっと世話してほしい」(図14)が、上海45%、ソウル45%、「もっと遊

表31 親への期待

(%)

		東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
もっと親と話す時間がほしい	とてもそう思う	18.1	56.5	38.2	18.2	24.4
	わりとそう思う	28.6	31.1	36.6	39.3	34.9
	あまりそう思わない	36.8	9.2	19.9	27.7	24.3
	ぜんぜんそう思わない	16.5	3.2	5.3	14.8	16.4
もっと親が自分の世話をしてほしい	とてもそう思う	8.3	45.4	44.7	14.7	14.1
	わりとそう思う	16.9	30.4	29.0	27.7	25.4
	あまりそう思わない	50.1	18.0	18.0	25.3	30.4
	ぜんぜんそう思わない	24.7	6.2	8.3	32.3	30.1
もっと親が自分と遊んでほしい	とてもそう思う	24.4	42.4	34.3	19.7	26.8
	わりとそう思う	26.4	29.2	28.2	28.3	31.6
	あまりそう思わない	32.3	19.6	25.9	25.4	23.8
	ぜんぜんそう思わない	16.9	8.8	11.6	26.6	17.8
親がうるさく言わないでほしい	とてもそう思う	26.4	37.9	28.8	14.9	20.2
	わりとそう思う	29.6	33.4	29.5	34.3	35.1
	あまりそう思わない	29.9	18.7	29.1	31.7	25.9
	ぜんぜんそう思わない	14.1	10.0	12.6	19.1	18.8

3. 親子関係をめぐって

んでほしい」も、上海42%、ソウル34%と、他の3都市を圧している。日本はこの点で、アジアと欧米との中間ぐらいの数値であり、親子関係の距離では、アジアより欧米に近づいていることがわかる。

最後に「親がうるさく言わないでほしい」

では、親の世話や接触を求めている都市で、「うるさく言わないで」の数字も高い傾向にある点が面白い。世話してほしいが、同時にそれをうるさいと思う両価的（アンビバレント）な欲求が見いだされる。平たくいえば、子どもの身勝手さであろう。

図14 もっと親が自分の世話をしてほしい

	(%)			
	とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
東京	8.3	16.9	50.1	24.7
上海	45.4		30.4	18.0 6.2
ソウル	44.7		29.0	18.0 8.3
ロンドン	14.7	27.7	25.3	32.3
ニューヨーク	14.1	25.4	30.4	30.1

3) 将来どうしたいか

以上で現在の親と子の関係をいくつかの側面からみてきたが、では子どもは将来にわたって、親とどの程度の心理的距離をとって暮らしたいと思っているのかをみてみよう。ここにはそれぞれの社会での文化の違いがあると思うが、表32（図15）によると、親と同じ家での同居を望む子は、ソウル46%、上海

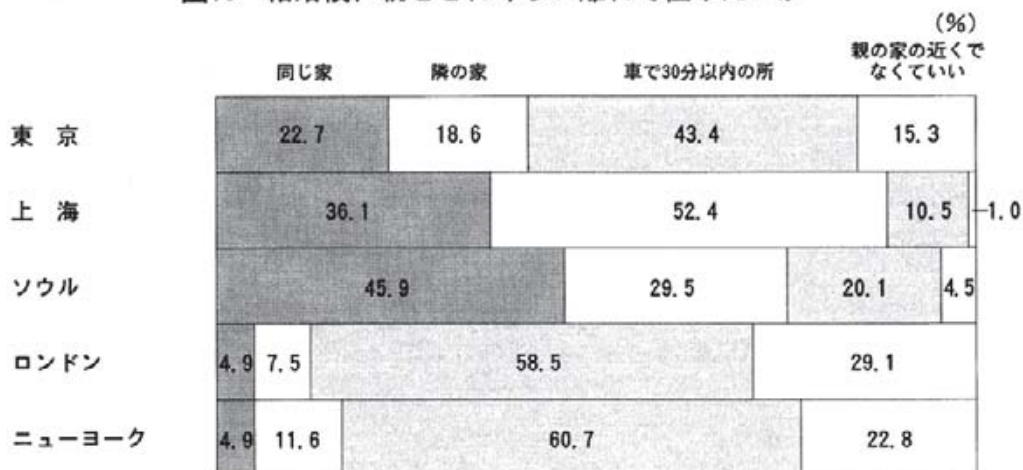
36%、東京23%の順で、アジア文化圏の子どもは、将来とも親との関係を継続したがっている。そうした希望は、ロンドン、ニューヨークではいずれも5%と、極めて低い。また最頻値をとると、ニューヨーク、ロンドン、東京が「車で30分以内」の所で、上海が「隣の家」、ソウルが「同じ家」で暮らしたい、となっており、この点では東京は西洋型に近いことがわかる。

また表33（図16）の、「親が老いて、歩け

表32 結婚後、親とどれくらい離れて住みたいか

	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
同じ家	22.7	36.1	45.9	4.9	4.9
隣の家	18.6	52.4	29.5	7.5	11.6
車で30分以内の所	43.4	10.5	20.1	58.5	60.7
親の家の近くでなくていい	15.3	1.0	4.5	29.1	22.8

図15 結婚後、親とどれくらい離れて住みたいか



3. 親子関係をめぐって

なくなったらどう介護するか」の数字には、都市による老人福祉施設の充実度も反映するであろうが、最頻値をとれば、上海、ソウル、東京が「自分の家で世話をする」やり方、ニューヨーク、ロンドンが、「近くの家で世話をする」であり、子どもにとって老いたときの親とは、できれば身近に置きたいものなのであろう。少し詳しく数字をみると、「自分の家で世話をする」親孝行型は、上海が84%と最も高く、次いでソウル76%、東京54%、

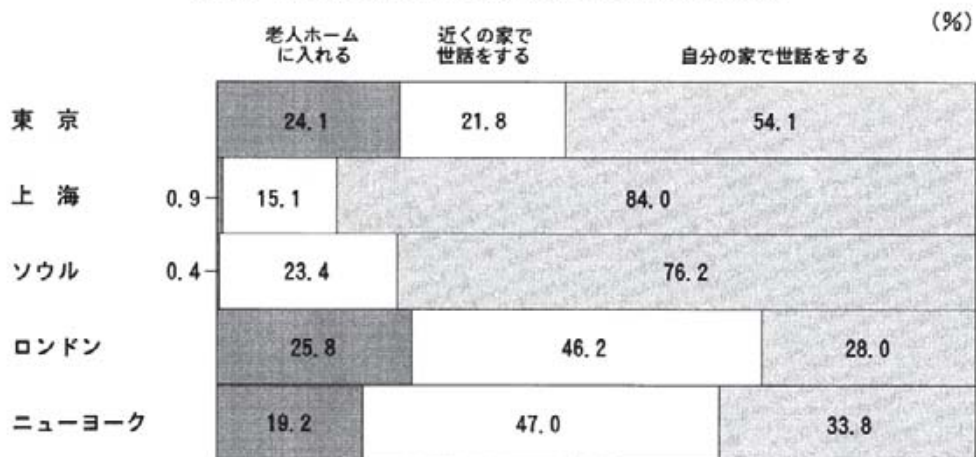
ニューヨーク34%、ロンドン28%となっている。一番の割り切り方がされているのはロンドンで、「老人ホームに入れる」が26%と都市間で最も高く、「自分の家で世話をする」が28%と最も低い。

上海やソウルの子は親の老後を子どもが面倒をみるつもりと思い、ロンドンやニューヨークでも近くに住むと答える割合が高い。それに対し、東京の子はロンドンと上海の中間に位置している。

表33 親が老後、歩けなくなったらどうするか

	東 京	上 海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
老人ホームに入れる	24.1	0.9	0.4	25.8	19.2
近くの家で世話をする	21.8	15.1	23.4	46.2	47.0
自分の家で世話をする	54.1	84.0	76.2	28.0	33.8

図16 親が老後、歩けなくなったらどうするか



● 2、3章のまとめ))

2、3章では、子どもの目を通して、それぞれの都市の家族と親子関係に接近してみた。その結果、大きくアジア文化圏の3つの都市と欧米の2つの都市では、家族や親子関係にいくつかの点で特徴が見いだされる。

欧米の2都市では、家族の中での親の権威が健在で、家庭の運営に親が決定権を持ち、意外にきちんと子どもをしつけており、タテの関係が健在であるという印象を受ける。家族全体のことは親が決めるが、子どもは個として尊重されているのであろう。小さな自分の領域では自己決定を尊重されているかのようだ。ただしこれは、地域の概況でもふれたように、両都市が白人の中流階級から構成された豊かな地域で、古き良き時代の健全な市民社会の家庭が残っているという、地域特性とも関係しそうである。

興味深いのは、子どもは、親は自分の気持ちをわかっていると思っているが、しかし親

の気持ちは今一つわからないと答えている点である。親子の気持ちの疎通が、子どもの側から欠けはじめている印象を受ける。また、家において、多少ともいらいらする、緊張すると答える子の割合はアジア文化圏より多い。加えて、もっと親に接触したい、親から構ってほしいとする要求も低く、これらから欧米の親子の間に心理的距離がある、または親子相互の自立度が高いのを感じる。

さらに親がいつも自分の意見に賛成してくれるかどうか、という親子の一体感も、欧米ではアジア文化圏の子どもより薄い。また将来の親との関係でも、ニューヨークとロンドンの子どもは車で30分という、親と一定の距離をおいた生活を望んでいる点で、アジアの子どもと違っている。

以上は、欧米での親子関係は希薄であり、何らかの問題があるとみるのがいいか、それとも子どもに親からの自立が達成されている

とみるのがいいか、議論が必要であろう。

これに対して対照的なのは、アジア、とくに上海およびソウルである。上海では、一人っ子社会での成長がよく反映されており、家族全体にかかわることにも、欧米より子どもの意見が尊重され、親から何かと「心配してもらおう」という心理的圧力を、子どもは受けている。親子間の気持ちの疎通性も際だって大きく、一体感も強い。わがままも、わりと親に聞いてもらえると感じている。将来も自分の手で親の世話をしたい子は、上海とソウルに多い。欧米の子の親子関係に比べ密着し、未だ自立に至らない、未分化な関係が見いだされる。

ここで日本のデータをまとめてみよう。

親密な家族関係を軸とする上海、ソウルと、家族の崩壊が進むロンドン、ニューヨークを比較する中で、東京など日本の親子関係はどう位置づけられるか。

上海、ソウルのデータと比較すると、東京では親子の一体感が薄れ、親が子どもをあまり気かけない、子どもも将来、親と距離を置いた生活を望んでいる点などから、伝統的な親子密着のパターンはかなり崩れてきてい

る印象を受ける。しかし、だからと言って東京には、欧米のように個を尊重する原則や明確なルールは未だ確立しておらず、欧米的な親子関係に近づいているとも言えない印象を受ける。

また東京の子どもたちは、家庭に大きな居心地のよさを感じているにもかかわらず、残念ながら親子関係における満足感や幸せ感は決して十分でないように見受けられる。

図式的に述べるならば、上海やソウルの子子どもたちは親密な家族関係を維持することによって、またロンドンやニューヨークでは独立した自我を持つことによって、幸せ感や安定を得ているのかもしれない。東京の場合、薄れつつある密着関係による幸せ感にとって代わるような新しい親子関係や自我のあり方の規範が未だ十分に確立されていないとすれば、家族の形態や価値観が急速に変化している中で、子どもたちが安定し、幸せを感じることができる新たな親子関係のあり方を考えていく必要があるようだ。



●家庭の中の性差)))

1) 家事育児の担い手

先進国を中心として、性差を解消しようとする動きが強まっている。しかし、性差はそれぞれの社会の歴史的な背景を背負った文化の問題だけに、単純に是非を論じにくい面を含んでいる。

そうした考察は後にふれるとして、まず調査結果を紹介してみよう。表34はふだんの家庭生活中で誰が家事育児を担っているかを尋ねた項目の中から「たいていお母さんの方」の割合を示している。「夕食を作る」や「一番早く起きる」のが母親という傾向はどこ社会にも共通している。そうした中で、「夕食を作る」が95%の数値が示すように、東京の

母親が家事を担っている割合は他の都市の母親に比べ最も高い。それと比較するとニューヨークの母親は「夕食を作る」が78%に達しているものの、「朝起き」が36%のように、全体としてみると家事育児を担っている割合が低い印象を受ける。また、上海の母親は共働きをしているので、「夕食を作る」が他の都市の中で最も低い68%、「収入が多い」が他の都市より高い26%など、共働きが定着しているのを感じさせる。

表35は表34と反対に、「家事育児を父親がどれくらい担っているのか」を示している。「収入が多い」や「仕事で疲れている」のは父親という評価はどの社会の子にも共通している。そして、都市の差に着目すると、東京の父親は家族の中で「収入が多い」(80%)

が、「夕食を作る」が最低の2%のように家事を担う割合が少ない。それに反して、ニューヨークの父親は収入が家の中で多いとはいえないが、朝一番早く起きている割合が多いという傾向が示されている。

この表34、表35を要約したのが表36で、こ

こでは、母親がする（母親にあてはまる）という回答が50%以上を◎、40～49%を○、父親がするが50%以上を■、40～49%を□の形で図化してある。この表から多くの示唆が得られるが、それを箇条書きにまとめると以下のようなだろう。

表34 母親がする割合

(%)

	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
夕食を作る	95.0	67.9	88.9	79.1	77.9
一番早く起きる	65.8	51.1	56.5	45.0	36.4
子どもを叱る	50.2	48.2	48.3	32.6	21.0
世の中のできごとをよく知っている	17.2	13.3	7.5	25.4	17.7
仕事で疲れている	11.9	33.9	23.7	31.4	15.7
遊んでくれる	11.8	27.0	22.9	23.4	14.7
収入が多い	5.9	26.3	9.7	20.8	6.9

「たいていお母さんの方」の割合

表35 父親がする割合

(%)

	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
夕食を作る	2.0	23.1	2.4	9.3	6.8
一番早く起きる	22.2	24.1	26.8	38.0	46.0
子どもを叱る	16.5	32.0	16.6	24.9	17.2
世の中のできごとをよく知っている	46.4	70.0	60.3	35.6	25.2
仕事で疲れている	68.0	48.5	48.0	41.5	50.0
遊んでくれる	47.8	42.2	32.5	23.9	23.5
収入が多い	79.5	60.9	71.1	56.1	41.8

「たいていお父さんの方」の割合

① 母親の仕事=多くの社会では「夕食を作る」や「一番早く起きる」のは母親である。

② 父親の仕事=多くの社会で家の中で「収入が多い」「仕事が大変」なのは父親である。

③ 都市間の開き=母親が家事育児を最もしているのが東京で、上海は両親間の性差が少なく、共働きの家庭が作られている。ロンドンやニューヨークも性差が少ない。

そこでもう少し具体的に、「母親の帰宅が遅いとき、夕食を誰が作るか」を尋ねてみた。結果は図17(表37)の通りで、この中から特

微的な傾向を抜き取ると、以下ようになる。

<母親が不在のとき>

東京=母親が作っておく

ソウル=子どもたちが作る

上海、ロンドン、ニューヨーク=父親が作る
おおづかみにすると、いざとなると父親が母親の代行をするのが上海やロンドン、ニューヨークで、東京は母親があくまで母親の役割を担おうとしている。そして、ソウルでは子どもたちのがんばりが目につく。

表36 父親と母親のどちらがするか

	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
夕食を作る	◎	◎	◎	◎	◎
一番早く起きる	◎	◎	◎	○	
子どもを叱る	◎	○	○		
世の中のできごとをよく知っている	□	■	■		
仕事で疲れている	■	□	□	□	■
遊んでくれる	□	□			
収入が多い	■	■	■	■	□

◎=「たいていお母さんの方」の割合が50%を超える

○=「たいていお母さんの方」の割合が40%~49%

■=「たいていお父さんの方」の割合が50%を超える

□=「たいていお父さんの方」の割合が40%~49%

図17 母親が遅いときの夕食の準備

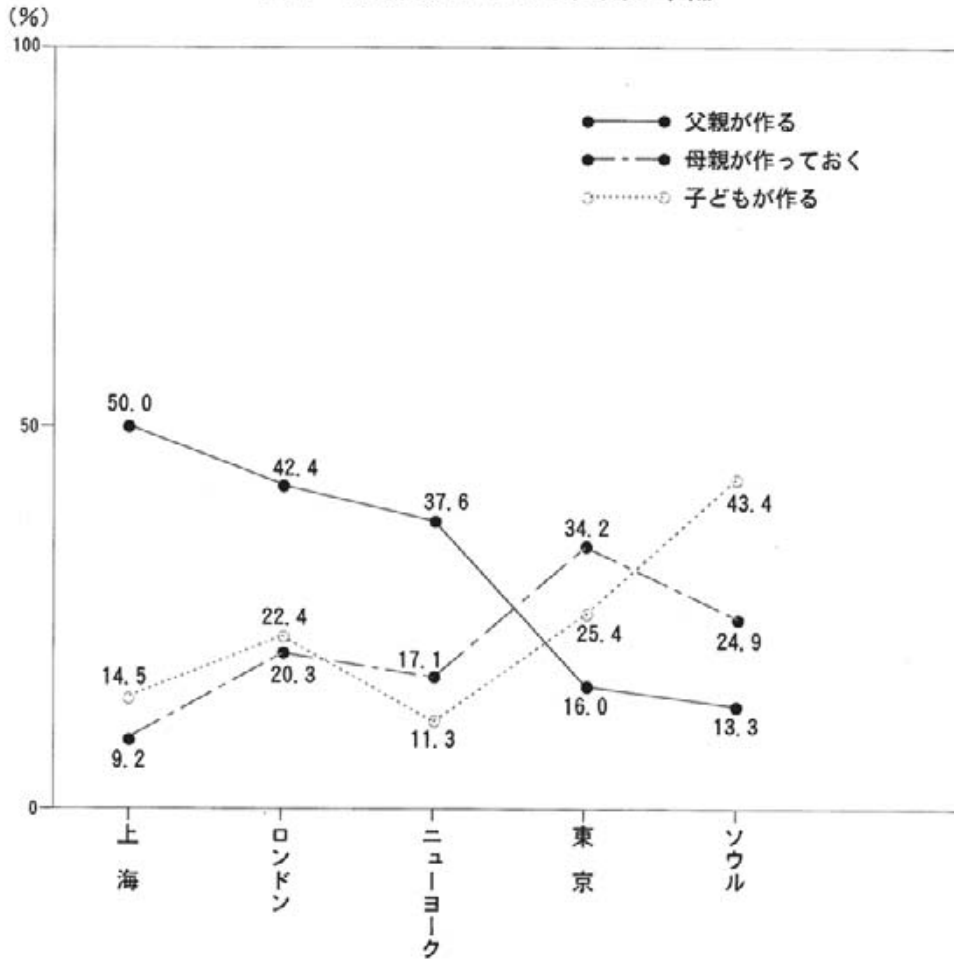


表37 母親が遅いときの夕食の準備

(%)

	父親	子ども	他の人	母親	外食	出前
東京	16.0	25.4	11.7	34.2	3.2	9.5
上海	50.0	14.5	17.7	9.2	4.4	4.2
ソウル	13.3	43.4	7.3	24.9	2.4	8.7
ロンドン	42.4	22.4	3.5	20.3	3.1	8.3
ニューヨーク	37.6	11.3	8.7	17.1	8.1	17.2

2) 家事の手伝い

このように、それぞれの社会の家庭には性差について、それぞれの社会らしさが存在していた。それでは、そうした文化の違いは子どもたちにどのような影響をもたらしている

のであろうか。表38に「洗濯」や「部屋の掃除」などを行っている割合を示した。「洗濯」を例にすると、5つの都市の中で東京が9%（「毎日」+「わりと」する割合）と最も低く、次いでソウルの12%、そしてニューヨークの14%、ロンドンの19%となる。なお、上海の子が手伝う割合は25%に達する。

表38 家事の手伝い

(%)

	東京		上海		ソウル		ロンドン		ニューヨーク	
	毎日	わりと	毎日	わりと	毎日	わりと	毎日	わりと	毎日	わりと
洗濯	1.7	7.5	3.5	21.1	2.9	9.0	6.0	13.0	4.8	8.8
	9.2		24.6		11.9		19.0		13.6	
部屋の掃除	2.2	14.3	9.3	36.4	5.7	20.0	9.6	26.6	10.2	18.1
	16.5		45.7		25.7		36.2		28.3	
夕食後の皿洗い	6.0	19.7	20.3	27.4	3.8	13.8	22.2	20.7	15.4	16.5
	25.7		47.7		17.6		42.9		31.9	
夕食の手伝い	11.1	29.9	4.5	16.3	18.2	27.9	17.9	26.5	22.7	29.2
	41.0		20.8		46.1		44.4		51.9	
部屋の整理	13.3	31.5	25.8	39.3	32.2	34.1	16.6	34.4	24.3	30.6
	44.8		65.1		66.3		51.0		54.9	

「部屋の掃除」なども「洗濯」と同じような傾向がうかがえるが、手伝いは子どもの性差によって意味が異なると思われるので、性別のクロス集計の結果をまとめると表39のようになる。

ここでは、表中の（ ）の数値に注目してほしい。これは、女子の手伝い率を分母に取

り、男子の手伝い率を分子にして、男子の手伝いが女子とどれくらい開いているのかを試算してみた。詳しい数値はそれぞれの欄に譲るとして、ここでは「洗濯」から「部屋の整理」までを合算して平均値を算出した一番下の欄に注目してほしい。東京の男子の手伝い率は女子の58%と6割を下回っているのに、

表39 家事の手伝い × 性

(%)

	東京		上海		ソウル		ロンドン		ニューヨーク	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
洗濯	6.2 (51.7)	12.0	23.3 (90.0)	25.9	11.3 (90.4)	12.5	12.5 (48.4)	25.8	9.2 (51.4)	17.9
部屋の掃除	11.6 (54.0)	21.5	45.4 (98.3)	46.2	21.4 (70.4)	30.4	29.2 (67.3)	43.4	26.0 (84.7)	30.7
夕食後の皿洗い	18.2 (54.5)	33.4	42.1 (79.4)	53.0	9.4 (36.2)	26.0	39.9 (88.3)	45.2	28.1 (79.8)	35.2
夕食の手伝い	30.1 (58.2)	51.7	23.2 (126.1)	18.4	35.4 (61.6)	57.5	37.4 (73.8)	50.7	45.5 (76.6)	59.4
部屋の整理	37.5 (72.3)	51.9	61.8 (91.0)	67.9	51.6 (71.8)	71.9	49.1 (93.0)	52.8	51.6 (88.8)	58.1
男子/女子 (平均)	(58.1)		(97.0)		(66.1)		(74.2)		(76.3)	

「毎日」+「わりと」する割合
 () 内は $\frac{\text{男子}}{\text{女子}} \times 100$

ソウルは66%、ロンドンは74%、ニューヨークは76%と、男子も女子とかなり同じように家事に参加している。そして、上海は97%と男子の手伝いは女子とほとんど変わっていない印象を受ける。表40は表38、表39とをまとめたものだが、○印は5都市の中で手伝う割合

が最も高い都市、それとは逆に、×印は手伝う割合が最も低い都市を示している。ソウルの女子は「部屋の整頓」をしている。あるいは上海の子は手伝いをよくしているのになぜか「夕食の手伝いをあまりしない」など、項目によって多少のちらばりが認められるが、東

表40 家事の手伝い

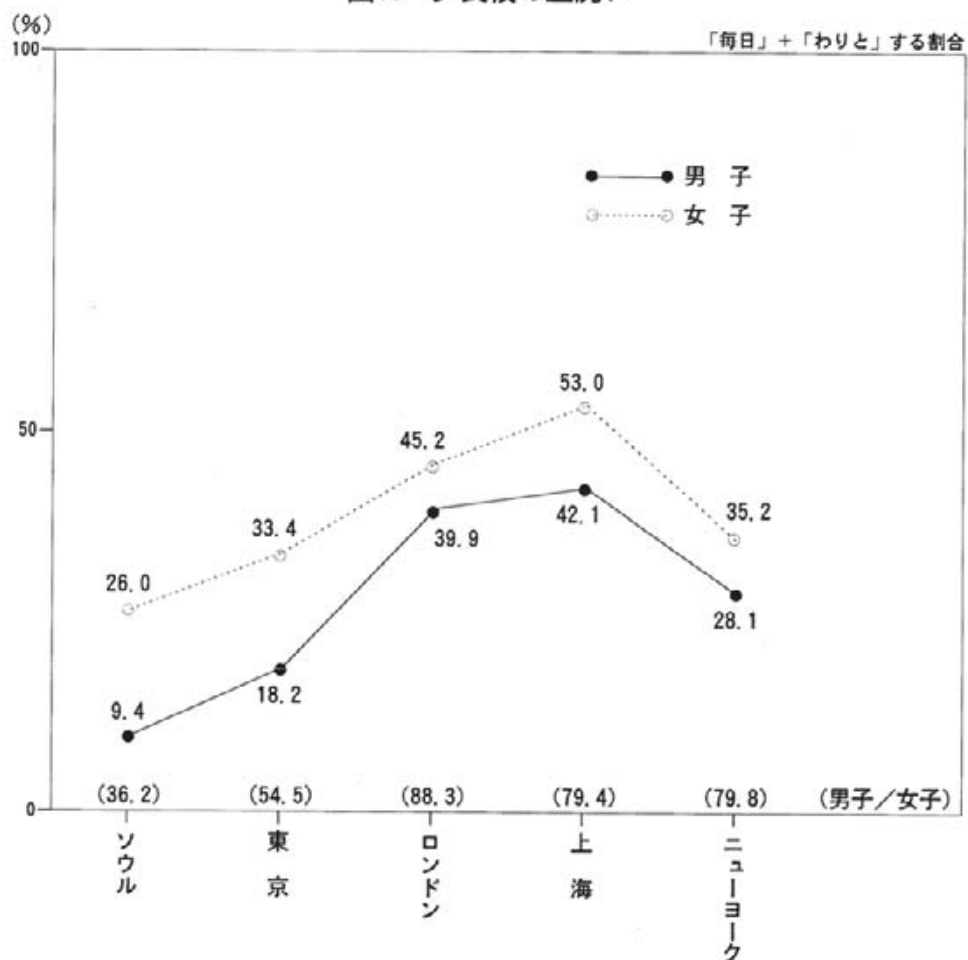
	東京		上海		ソウル		ロンドン		ニューヨーク	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
洗濯	×	×	○	○						
部屋の掃除	×	×	○	○						
夕食後の皿洗い			○	○	×	×				
夕食の手伝い			×	×					○	○
部屋の整頓	×	×	○			○				

○ = 5都市の中で最大値 × = 5都市の中で最小値

京の子の手伝う割合が全体として低い。それに対し、上海の男子は女子と同じように家事を手伝っているのが目につく。そして、ロンドンやニューヨークの子どもたちも東京やソウルの子より家事を手伝っているし、中でも男の子たちが手伝っているのが注目される。

なお、子どもの手伝いの中で最も一般的と思われる「夕食後の皿洗い」についての結果を図18にまとめてみた。ソウルと東京の子が手伝いをしていないのが際だっている。

図18 夕食後の皿洗い



●将来への見通し)))

1) 結婚をする気

それでは、子どもたちは自分の将来の家庭生活をどのように予想しているのでしょうか。表41に、「結婚をする気があるか」を尋ねた結果を示した。プリテスト段階で、子どもた

ちから「将来のことはよくわからない」という声が多かったので、「(結婚をするか) わからない」の項目を設けたが、上海の子の中に「わからない」の反応が4割に達している。一人っ子政策の導入に象徴されているように、上海では家族のあり方が揺れ、おとなたちの間でも、若い女性を中心に独身主義をとる傾

表41 結婚をする気持ち

(%)

		結婚したい		小 計	結婚したくない		わからない
		ぜひ	できれば		あまり	ぜったい	
全 体	東 京	22.6	30.1	52.7	14.0	4.2	29.1
	上 海	29.4	20.1	49.5	7.5	2.4	40.6
	ソウル	28.6	32.0	60.6	17.2	6.1	16.1
	ロンドン	41.5	18.7	60.2	3.7	4.7	31.4
	ニューヨーク	48.8	27.5	76.3	3.0	2.5	18.2
男 子	東 京	21.3	29.6	50.9	12.6	3.2	33.3
	上 海	39.8	17.0	56.8	4.1	1.6	37.5
	ソウル	38.7	28.7	67.4	12.3	4.5	15.8
	ロンドン	47.8	15.9	63.7	3.6	4.8	27.9
	ニューヨーク	50.6	28.3	78.9	3.2	2.1	15.8
女 子	東 京	23.7	30.3	54.0	15.6	5.3	25.1
	上 海	19.9	22.8	42.7	10.7	3.2	43.4
	ソウル	18.4	35.4	53.8	22.2	7.7	16.3
	ロンドン	35.3	20.4	55.7	4.5	4.5	35.3
	ニューヨーク	47.6	26.2	73.8	2.8	2.8	20.6

向が強まっているといわれる。そうした傾向が子どもたちにも反映されているのであろうか。

結婚をするかどうかを、結婚をするか「わからない」を除いて算出したのが、表42（図19）である。ソウルの女子の結婚希望率は64%と3分の2を下回っている。それに対し、ロンドンでは86%、ニューヨークは93%と、子どもたちは「結婚をする」と素直に答えている。しかし、図が示すように結婚したいと思うのは男子で、女子には男子ほど結婚願望は強くはない。

そして、「子どもがほしいか」は表43から明らかのように、上海の女子に子どもを持つことにちゅうちょしている傾向が目につく。しかし、その他の都市の子の7割以上は「子

どもを持ちたい」と答えている。

日本では少子化の進展が深刻な事態を迎えている。そうした一方、中国のように、人口の抑制に全力をあげている社会も少なくない。そこで子どもたちに子どもを何人ほしいか尋ねると、表44のような結果が得られた。

一人っ子政策を反映して「子どもは1人」と思っているのが上海の子であるのに対し、東京やソウルの子は2人を希望している。そして、ロンドンやニューヨークの子は2～3人を望む割合が高い。

全体として、子どもたちは自分が育ってきた環境と同じ感覚を望んでいるようで、このデータ通りだと、日本の少子化傾向は当分続くように思われてくる。

表42 結婚をする気（「わからない」を除く）

	(%)		
	全 体	男 子	女 子
東 京	74.3	76.3	72.1
上 海	83.3	90.9	75.4
ソウル	72.2	80.0	64.3
ロンドン	87.8	88.3	86.1
ニューヨーク	93.3	93.7	92.9

図19 結婚をする気（「わからない」を除く）

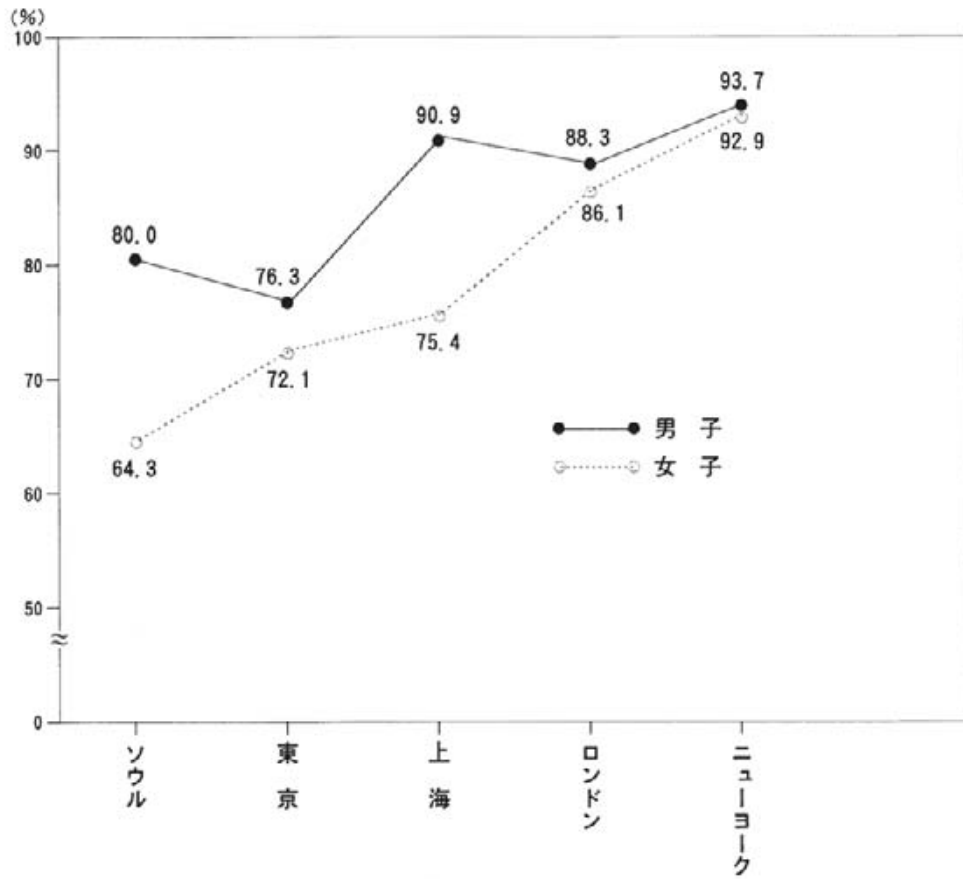


表43 子どもがほしいか

(%)

	全 体	男 子	女 子
東 京	77.0	77.8	76.3
上 海	57.4	62.1	52.5
ソウル	81.7	85.0	78.8
ロンドン	74.3	73.7	74.0
ニューヨーク	82.5	80.6	85.6

表44 子どもの数

(%)

		0人	ほしい	1人	2人	3人	4人以上
全 体	東 京	5.8	94.2	10.8	50.4	23.0	10.0
	上 海	3.4	96.6	76.1	19.1	0.7	0.7
	ソウル	4.6	95.4	23.2	59.3	7.7	5.2
	ロンドン	7.2	92.8	9.5	45.5	17.9	19.9
	ニューヨーク	2.7	97.3	3.9	40.1	28.9	24.4
男 子	東 京	4.1	95.9	11.2	57.0	24.3	3.4
	上 海	1.9	98.1	72.8	22.9	1.4	1.0
	ソウル	1.7	98.3	14.9	64.6	11.0	7.8
	ロンドン	7.2	92.8	7.8	40.2	20.9	23.9
	ニューヨーク	3.0	97.0	4.0	39.8	31.0	22.2
女 子	東 京	7.3	92.7	10.4	53.1	21.6	7.6
	上 海	5.0	95.0	78.5	15.5	0.7	0.3
	ソウル	7.1	92.9	32.3	54.4	3.3	2.9
	ロンドン	7.5	92.5	10.5	51.5	13.9	16.6
	ニューヨーク	2.6	97.4	3.3	40.4	26.8	26.9

「ほしい」は「わからない」を含む

2) 生まれ変わり

それでは、子どもたちは自分の性についてどう感じているのであろうか。「生まれ変われたら、男子、女子のどちらがよいか」を質問してみた。

伝統的に生きていく上で自分の性が有利、あるいは快適だと自分の性への生まれ変わりを望む。したがって、これまでのように男尊女卑の傾向が残る社会では、男子は男子に生まれたいと答えるのに対し、女子は男子への生まれ変わりを望むといわれる。

表45に示すように、男子はどここの社会でも男子への生まれ変わりを望んでいる。そしてロンドンやニューヨークの女の子も、8割以上が女子に生まれたいと答えている。それだけ、欧米では女性の差別撤廃が進み、女の子も女子であることに抵抗を抱かなくなったのであろうか。

そこで角度を変えて、女子に将来どういう生き方をしたいのかを、①専業主婦、②共働き、③ディンクス（子どもを持たない共働き）の選択肢を提示する形で尋ねてみた。図20（表46）に示すように、「将来のことはわからない」と答えている子が多いが、それで

表45 生まれ変わり

(%)

		ぜったい	できれば	男に	できれば	ぜったい	女に
全 体	東 京	40.8	19.9	60.7	20.5	18.8	39.3
	上 海	41.1	20.6	61.7	18.9	19.4	38.3
	ソウル*	—	—	51.7	—	—	48.3
	ロンドン	47.3	11.0	58.3	12.7	29.0	41.7
	ニューヨーク	45.5	9.7	55.2	12.8	32.0	44.8
男 子	東 京	71.0	22.7	93.7	4.2	2.1	6.3
	上 海	69.3	22.6	91.9	3.5	4.6	8.1
	ソウル	—	—	75.2	—	—	24.8
	ロンドン	80.5	13.1	93.6	4.8	1.6	6.4
	ニューヨーク	82.6	12.3	94.9	4.0	1.1	5.1
女 子	東 京	10.8	17.2	28.0	37.0	35.0	72.0
	上 海	15.3	18.8	34.1	33.5	32.4	65.9
	ソウル	—	—	26.7	—	—	73.3
	ロンドン	8.0	8.0	16.0	23.7	60.3	84.0
	ニューヨーク	3.7	6.5	10.2	23.3	66.5	89.8

*ソウルでは調査票の打ち合わせ段階で他と尺度を異にしてある。

図20 女子の生き方（女子のみ）

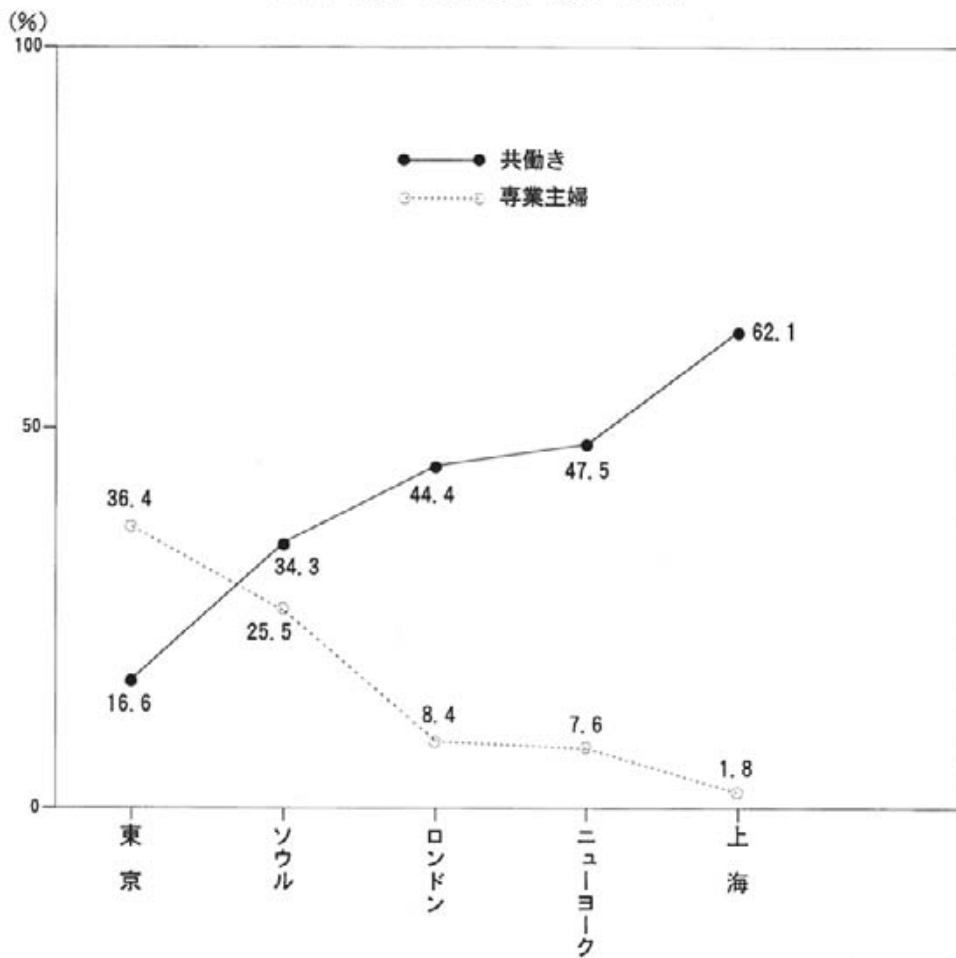


表46 女子の理想の生き方（女子のみ）

(%)

	専業主婦	共働き	ディンクス	わからない
東京	36.4	16.6	1.9	45.1
上海	1.8	62.1	3.0	33.1
ソウル	25.5	34.3	8.9	31.3
ロンドン	8.4	44.4	8.0	39.2
ニューヨーク	7.6	47.5	2.5	42.4

も東京＝専業主婦、ソウル＝専業主婦と共働きがミックス、上海＝共働き、ロンドン・ニューヨーク＝（上海ほどではないが）共働き、の傾向が認められる。

それでは、男子は将来の妻にどのような生き方を求めるのか。表47に示したように、「ソウル（54%）、東京（39%）＝専業主婦」、「上海（56%）、ロンドン（41%）、ニュー

ヨーク（38%）＝共働き」という結果が得られている。女子の理想とする生き方と男子が妻に望む生き方との間に微妙な違いが認められるが、それを確かめたのが表48である。

これは、表46、表47の中から「わからない」を除いて、子どもたちがどのような生き方を求めているかをまとめたもので、図21には専業主婦、図22には共働きについての結果を

表47 女子への希望（男子のみ）

(%)

	専業主婦	共働き	ディンクス	わからない
東京	39.0	15.7	1.2	44.1
上海	6.2	56.0	0.3	37.5
ソウル	53.5	17.8	2.8	25.9
ロンドン	12.9	40.8	9.0	37.3
ニューヨーク	14.7	37.6	3.5	44.2

表48 将来の生き方（「わからない」を除く）

(%)

	専業主婦		共働き		ディンクス	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
東京	69.8	66.3	28.1	30.2	2.1	3.5
上海	9.9	2.7	89.6	92.8	0.5	4.5
ソウル	72.2	37.1	24.0	49.9	3.8	13.0
ロンドン	20.6	13.8	65.0	73.0	14.4	13.2
ニューヨーク	26.3	13.2	67.4	82.5	6.3	4.3

まとめてある。この中から都市に着目すると、5つの都市の傾向は以下のように要約できよう。

東京＝男子の70%が妻に専業主婦の生き方を望み、女子の66%も専業主婦の生き方を肯定している＝専業主婦志向が強い。

上海＝女子の93%が共働きを求め、男子の90%が共働きを支持している＝共働き志向が支配的。

ロンドン・ニューヨーク＝共働きがロンドンで男子が65%、女子が73%、ニューヨークで男子67%、女子83%のように、男子女子共に共働きを望む＝共働き志向が強い。

ソウル＝男子の72%が専業主婦を望んでいるのに、女子でそう思っているのは37%で、女子の50%は共働きを望んでいる＝男子と女子とで生き方のズレがみられる。

図21 専業主婦の生き方（「わからない」を除く）

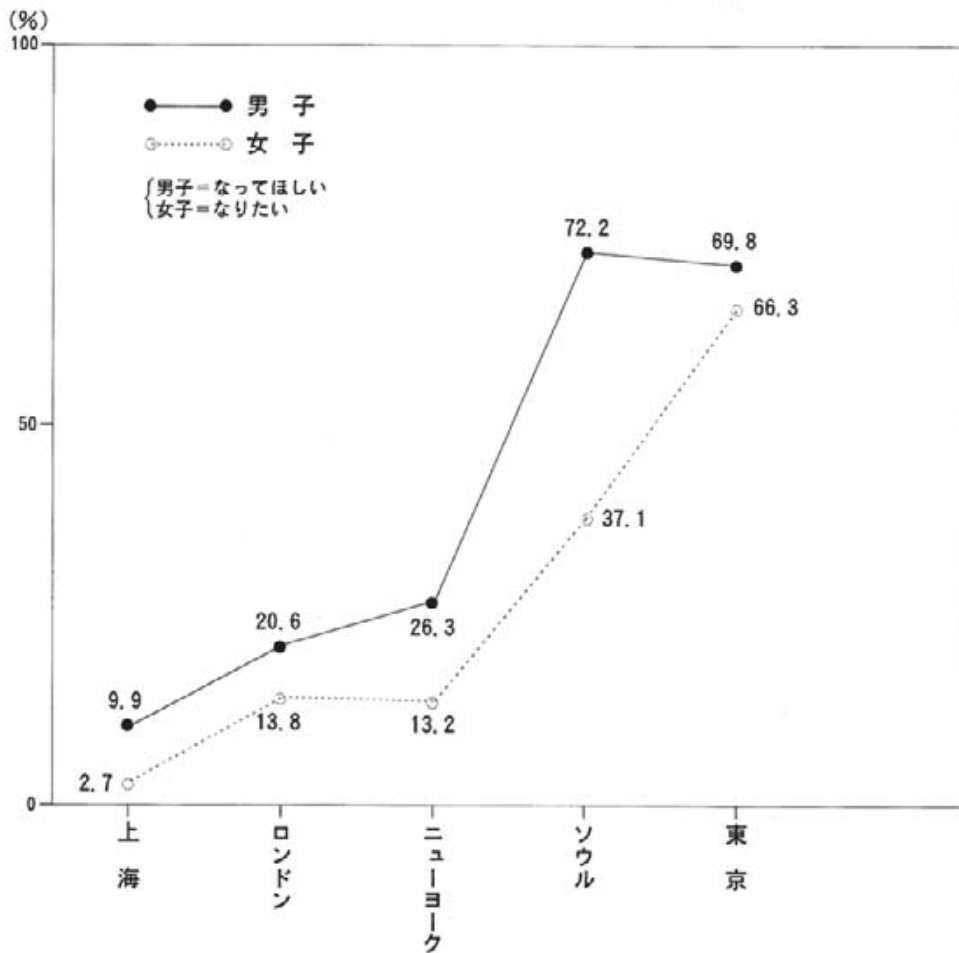
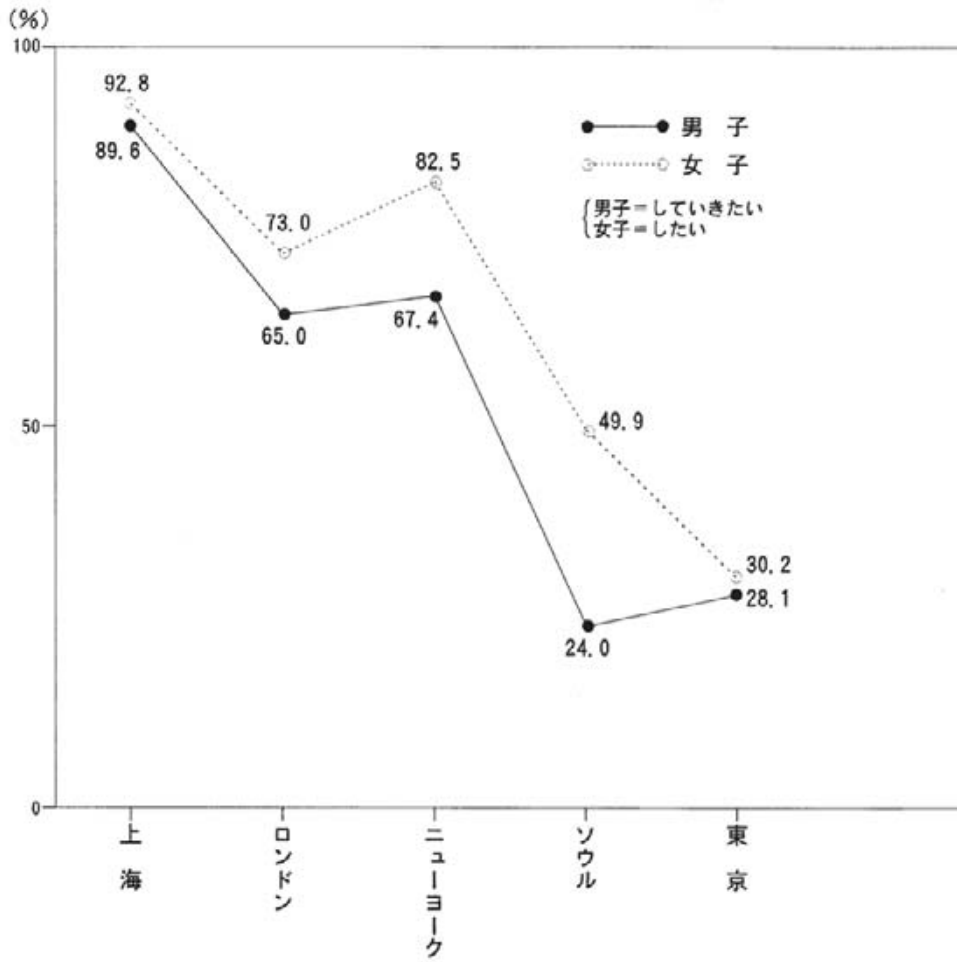


図22 共働きの生き方（「わからない」を除く）



●将来の家庭生活)))

1) 家事の担い手

子どもたちもいずれ家庭を構える。そうしたときに、子どもたちはどういう家庭を作ろうとしているのか。図23(表49)は以下のような設問に対する回答である。「結婚してあなたが作る家庭で、あなたも相手もおつとめをしていたとします。2人とも同じくらいに忙しかったとしたら、食事や掃除などの家の

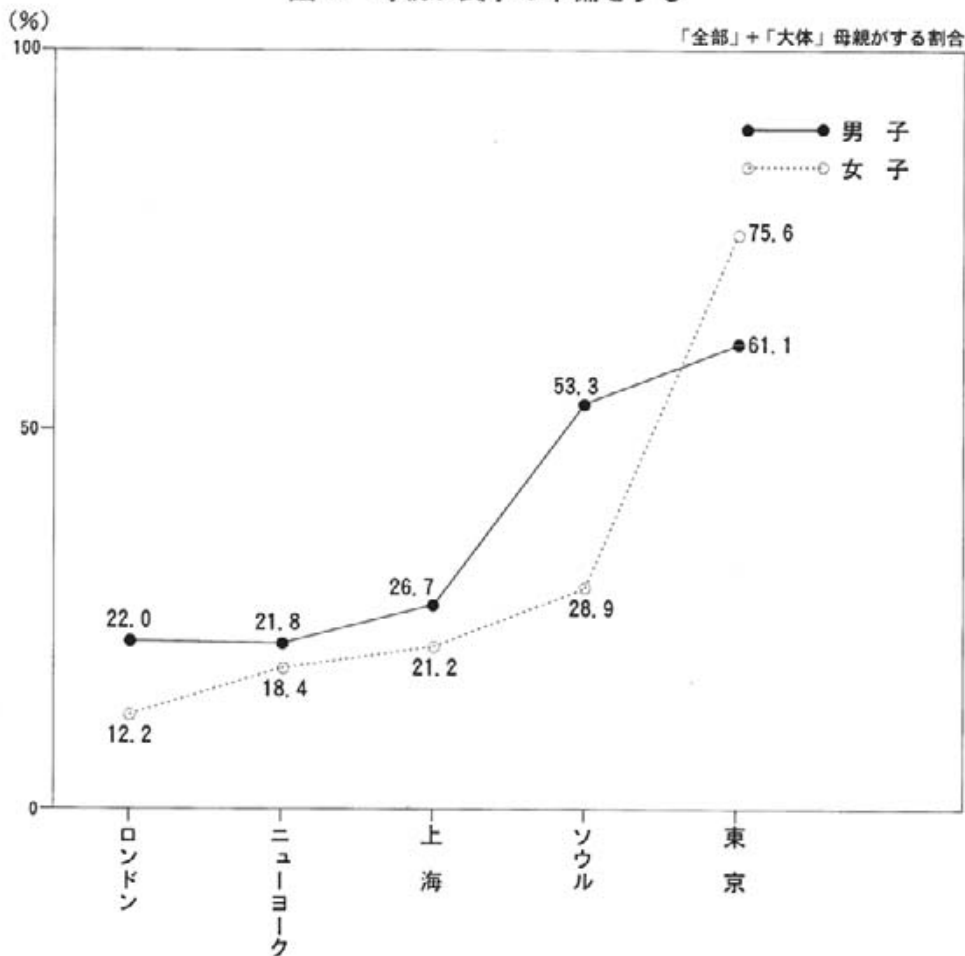
仕事は、どちらがしたいと思いますか。」

ここでは、「夫婦が共働き」の条件で家事を誰がするのが望ましいかと尋ねたので「同じだけする」の回答が過半数を占めると予測していた。しかし、東京やソウルの反応は「母親がする」の回答が多かった。

そこで都市ごとの特性を洗い出すと、以下のような4つの傾向が認められる。

東京=男子も女子も家事を担うのは女性の仕事と考えている。

図23 母親が食事の準備をする



ソウル=男子は家事を女性に期待しているのに、女子は男女共にと考えている。

ロンドン・ニューヨーク=女子はむろん、

男子も男女が同じように家事をする必要があると考えている。

上海=女子は男女共にと考えているが、男

表49 食事の準備は誰が

(%)

		母 親		小 計	同じだけ	父 親		小 計
		全部	大体			大体	全部	
全 体	東 京	15.9	52.4	68.3	26.9	3.8	1.0	4.8
	上 海	1.1	22.6	23.7	66.5	7.2	2.6	9.8
	ソウル	1.5	39.9	41.4	50.7	5.8	2.1	7.9
	ロンドン	6.3	10.9	17.2	76.0	3.8	3.0	6.8
	ニューヨーク	6.5	13.4	19.9	75.1	3.1	1.9	5.0
男 子	東 京	12.9	48.2	61.1	31.1	6.2	1.6	7.8
	上 海	2.3	24.4	26.7	59.8	10.3	3.2	13.5
	ソウル	3.0	50.3	53.3	38.7	6.7	1.3	8.0
	ロンドン	10.0	12.0	22.0	72.0	5.2	0.8	6.0
	ニューヨーク	8.5	13.3	21.8	71.8	4.2	2.2	6.4
女 子	東 京	18.8	56.8	75.6	22.5	1.4	0.5	1.9
	上 海	0.0	21.2	21.2	73.0	3.6	2.2	5.8
	ソウル	0.0	28.9	28.9	63.3	5.0	2.8	7.8
	ロンドン	2.7	9.5	12.2	80.1	2.3	5.4	7.7
	ニューヨーク	4.1	14.3	18.4	78.3	2.1	1.2	3.3

子は女性がするのも悪くはないと少し思っている。

表50は、表49と同じ条件で「子どもの世

話」を誰がするといいいのかを尋ねた結果である。基本的に、表49の傾向が表50にも認められるのは数値の示す通りである。

表50 子どもの世話は誰が

(%)

		母 親		小 計	同じだけ	父 親		小 計
		全部	大体			大体	全部	
全 体	東 京	15.6	53.1	68.7	24.4	5.8	1.1	6.9
	上 海	2.2	20.0	22.2	62.1	13.5	2.2	15.7
	ソウル	6.6	55.8	62.4	29.8	5.5	2.3	7.8
	ロンドン	6.0	10.1	16.1	78.9	3.2	1.8	5.0
	ニューヨーク	9.6	15.6	25.2	72.1	1.9	0.8	2.7
男 子	東 京	12.4	47.9	60.3	30.1	7.8	1.8	9.6
	上 海	2.6	15.6	18.2	57.8	20.7	3.3	24.0
	ソウル	10.1	58.8	68.9	23.2	5.5	2.4	7.9
	ロンドン	6.8	7.2	14.0	79.2	4.4	2.4	6.8
	ニューヨーク	10.9	14.9	25.8	69.9	3.0	1.3	4.3
女 子	東 京	18.8	58.2	77.0	18.7	3.8	0.5	4.3
	上 海	1.9	23.7	25.6	66.3	7.0	1.1	8.1
	ソウル	3.0	52.5	55.5	36.7	5.5	2.3	7.8
	ロンドン	4.1	13.6	17.7	80.5	0.9	0.9	1.8
	ニューヨーク	8.9	15.9	24.8	74.0	0.7	0.5	1.2

なお、図24（表51）に表50を要約した結果を掲げたが、育児は母親の仕事という感覚を持っているのは東京とソウルで、その中でも東京は女子がそう思う割合が高い。それに対し、ソウルは男子がそう考えているのに、女

子が反発しているのが興味深い。なお、ロンドンやニューヨーク、上海は育児は父と母とが助けあって行うものという感覚が定着している。

図24 母親が子どもの世話をする

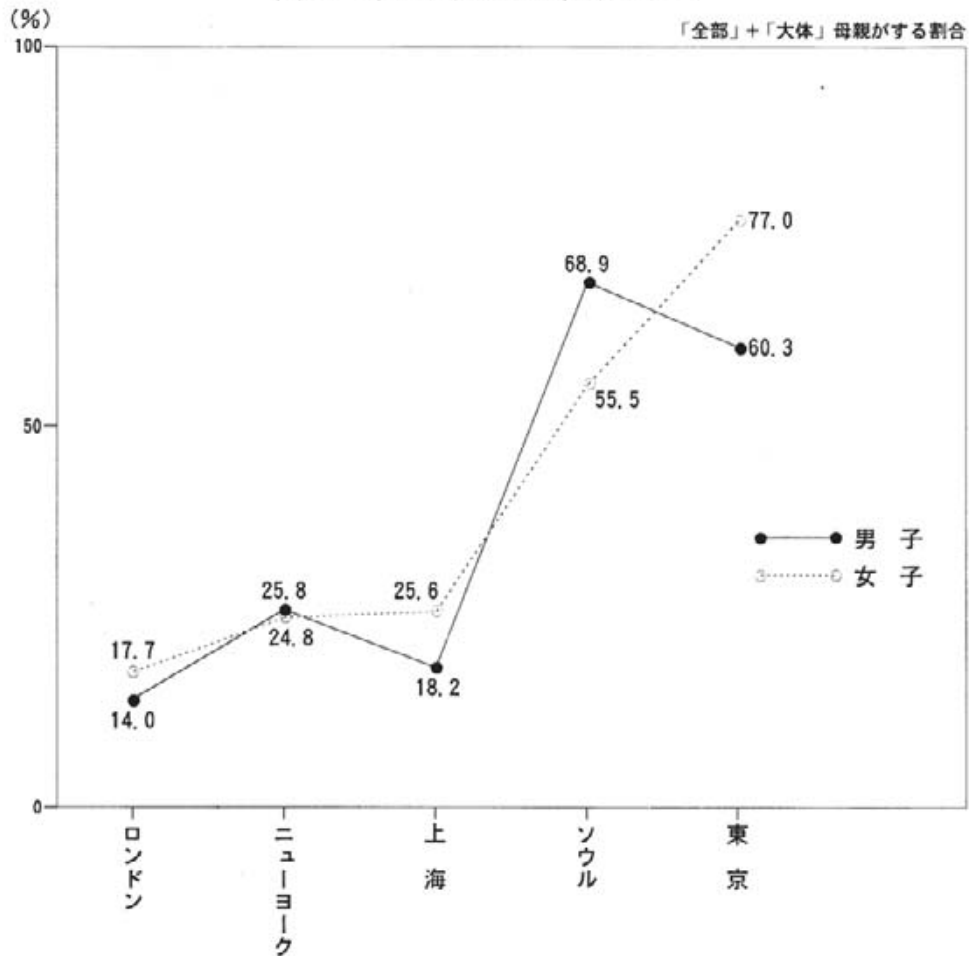


表51 母親が子どもの世話（表50より）

(%)

	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
男子	60.3	18.2	68.9	14.0	25.8
女子	77.0	25.6	55.5	17.7	24.8

「全部」+「大体」母親がする割合

2) 将来の予測

それでは、子どもたちは将来をどう予測しているのでしょうか。表52から明らかなように、どの都市の子どもも「よい父（母）になる」

や「幸せな家庭を作る」のは可能だろうと思っている。しかし「有名な人になる」や「仕事で成功する」などの社会的な達成は容易でないと感じている。そうした中で、ニューヨークの子が将来に明るい見通しを抱いているのに、東京の子どもの未来像が暗い

表52 将来の予測

(%)

	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
お金持ちになる	7.6	15.7	15.2	17.2	18.1
皆から好かれる人になる	7.6	47.5	20.5	10.7	16.2
有名な人になる	7.9	9.6	15.6	14.3	14.9
仕事で成功する	15.9	37.5	40.2	17.2	31.9
よい父（母）になる	18.4	64.3	57.2	47.2	66.0
幸せな家庭を作る	34.7	58.7	66.8	53.8	70.3

「きっとそうなる」割合

のが気がかりである。そして、表52を男女別に集計をした表53(図25)の結果でも、東京の女子はむろん男子の見通しが暗いのが目につく。

<男子の見通しが明るい>

(5都市の中で最大値)

東京=なし

上海=「好かれる人」「よい父(母)」

ソウル=「仕事での成功」

ロンドン=「お金持ち」「有名な人」

ニューヨーク=「幸せな家庭」

<女子の見通しが明るい>

東京=なし

表53 将来の予測 × 性

(%)

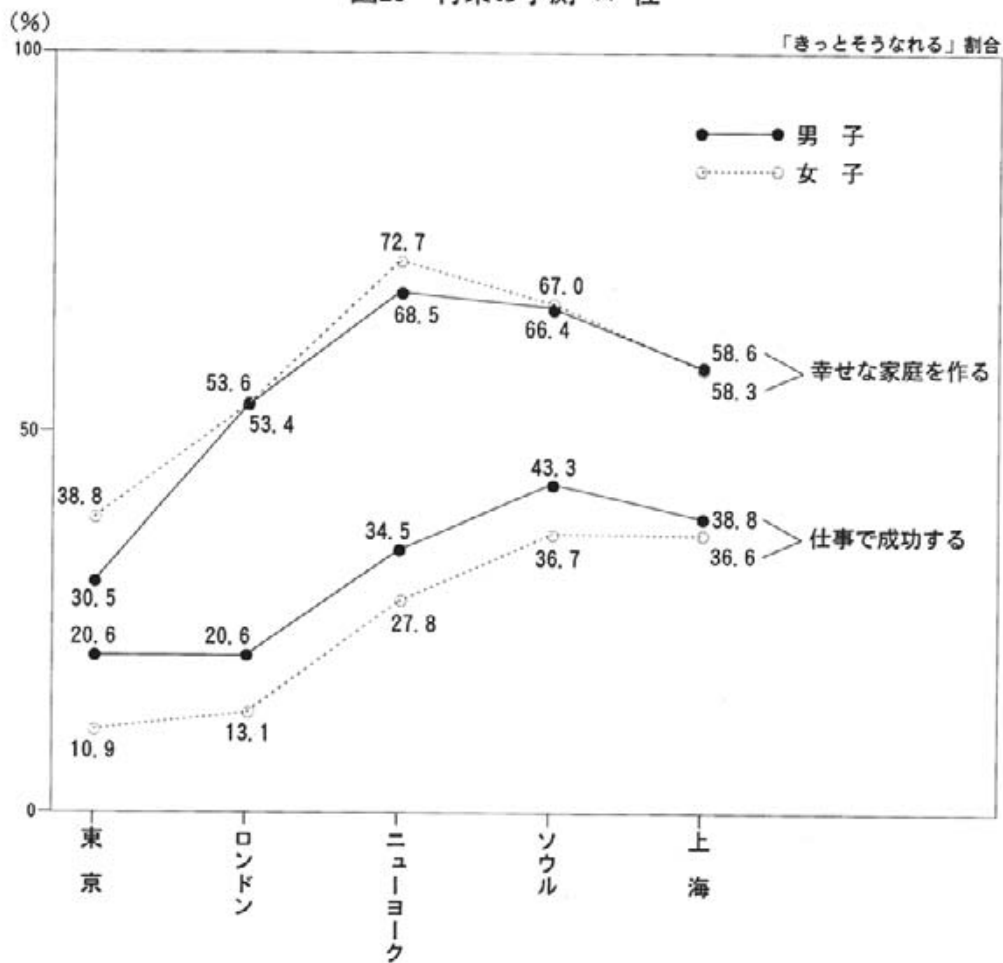
		東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
お金持ちになる	男子	11.1	18.5	15.6	24.6	22.7
	女子	4.0	13.2	14.1	9.1	13.2
皆から好かれる人になる	男子	8.7	42.6	20.7	12.8	18.5
	女子	6.1	52.0	20.8	8.6	13.1
有名な人になる	男子	11.0	10.2	17.0	22.5	20.2
	女子	4.4	9.0	14.0	5.4	8.1
仕事で成功する	男子	20.6	38.8	43.3	20.6	34.5
	女子	10.9	36.6	36.7	13.1	27.8
よい父(母)になる	男子	17.8	66.3	58.2	46.6	62.4
	女子	18.8	62.6	56.8	47.8	70.9
幸せな家庭を作る	男子	30.5	58.6	66.4	53.4	68.5
	女子	38.8	58.3	67.0	53.6	72.7

「きっとそうなる」割合

上海＝「好かれる人」
 ソウル＝「お金持ち」「有名な人」「仕事での成功」
 ロンドン＝なし
 ニューヨーク＝「よい父（母）」「幸せな家庭」

こう見てくると、図式化した言い方をすれば、「皆から好かれる人になりたい」＝上海、「仕事での成功を望む」＝ソウル、「幸せな家庭への憧れ」＝ニューヨーク、男子が仕事へ達成が強い＝ロンドン、男女共に達成が弱い＝東京となる。

図25 将来の予測 × 性



なお、表54に将来の見通しの男女比を求めたが、ここでも東京の女子が家庭志向を強める反面、社会的な達成の弱さが目につく。

それぞれの社会は歴史的な系譜を持ち、文化的にも独自のものを形成しているから、短絡的にどの都市の子の成長が望ましいとは言えないように思う。ただ、上海で男女共同の家庭作りの精神が子どもたちに定着しているのが印象的であった。また、ロンドンやニューヨークでは性差を解消しようとした70年代以降の傾向が子どもたちの間に浸透していた。それに対し、ソウルでは伝統的な女性役割を求める男子と、それに反発する女子との葛藤が興味深い。

そうした中で、東京の子は性的な役割分業意識を忠実に受け継いでいた。家事や育児は女性の仕事と、男子はむしろ女子も信じている。こうした問題は価値観に関連してくるの

で、性的な役割分業意識を持つことが悪いというのではない。しかし、子どもたちはこれからの社会に生きていくのであるから、性差へのこだわりをもう少しなくしてもよいのではと思った。

「いま、個性が性差を越えた」は何年か前の婦人週間のスローガンだった。そして、日本でも男女参画型社会への動きが強まっている。しかし、今回の調査データをみると、日本の子どもの世界はこれまでと変わっていないのを感じる。表面的に性差が解消されたといっても底の浅いものではないのか。欧米で社会の動きが子どもに浸透しているのを見ると、日本の変革が言葉の上滑りにすぎないようにも思われてくる。換言するなら、変化を感じないですむくらいに子どもをめぐる日本の状況は安定し、子どもたちは恵まれた環境の中で成長をしているのかもしれない。

表54 将来の予測 × 性

	(%)				
	東京	上海	ソウル	ロンドン	ニューヨーク
お金持ちになる	36.0	71.4	90.4	37.0	58.1
皆から好かれる人になる	70.1	122.1	100.5	67.2	70.8
有名な人になる	40.0	88.2	82.4	24.0	40.1
仕事で成功する	52.9	94.3	84.8	63.6	80.6
よい父(母)になる	105.6	94.4	97.6	102.6	113.6
幸せな家庭を作る	127.2	99.5	100.9	100.4	106.1

「女子がきつとそうなる」+「男子がきつとそうなる」